

至誠館大学

科目名	応急処置法(救急救命法)					
英語表記	Theory and Practice of First Aid and BLS					
担当教員名	國木孝治			年度	平成28年度	
基準年次	2	開講期	前期	単位数	2	
授業形態	講義・演習	授業形式		履修形態	選択	
授業概要						
<p>不慮の事故や急病になった場合は、医療機関に着くまでの適切な応急処置が大切である。そのため本授業では、市民ができる一次救命処置(BLS)や各種の応急手当に関する基本的な知識・技術・態度を学習する。特に学校、スポーツ施設、福祉施設などをはじめ、人が大勢集まる場所では、応急処置の方法を身に付けていることが望まれる。したがって、一般市民も実施することが可能なAEDを含めた心肺蘇生法および救急処置は、指導的立場に立つ者はもとより、全ての者が修得すべき必要不可欠な技術と知識である。救急処置実習では救急処置に関する手技を実施できるようになるのみならず、その理論や根拠についても言及する。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、介護、運動指導等現場で自信をもって対処することができる ・AED等を用いた心肺蘇生法に関する知識・技術が習得できる ・応急処置法および救急救命の理論と技術を用いて現場で迅速且つ積極的な行動をとることができる ・応急処置法や救急救命に関連する講習に参加することができる 						
授業計画						
第1回	ガイダンス					
第2回	講義： 救急処置論の概要					
第3回	講義： 救命の連鎖(心肺蘇生法の意義)					
第4回	講義： 心肺蘇生法の実際					
第5回	演習： 心肺蘇生法(1)： 安全の確認、応援要請、呼吸の確認					
第6回	演習： 心肺蘇生法(2)： 胸骨圧迫、人工呼吸					
第7回	演習： 心肺蘇生法(3)： 蘇生処置後の対応(安静の体位)、乳児・小児の心肺蘇生					
第8回	講義： 応急処置論の概要 / 包帯法(1)： 止血法、三角巾を用いた保護包帯法(頭部・胸部)					
第9回	演習： 包帯法(2)： 三角巾を用いた包帯法(上肢)					
第10回	演習： 包帯法(3)： 三角巾を用いた包帯法(下肢)					
第11回	演習： 包帯法(4)： 巻軸帯を用いた包帯法					
第12回	演習： 搬送法					
第13回	講義： 手当の基本(1)： 外傷の対応					
第14回	講義： 手当の基本(2)： 急病の対応					
第15回	講義： 手当の基本(3)： 野外における対応 / 授業総括					
評価方法と基準			評価項目と割合			
授業出席状況、授業態度・意欲、毎授業時に実施する実技試験、期末試験の結果を基に、総合的に評価する。			実技試験	期末試験	レポート	その他
			40	40	10	10
授業外学習			テキスト、教材			
・日本ライフセービング協会が認定発行している「BLS」、または、日本赤十字社が実施している「救急救命法救急員」の講習を受講することが望ましい			適宜配布する			
参考書			受講生へのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当指導者標準テキスト改訂委員会編(2012)応急手当指導者標準テキスト ・日本ライフセービング協会編(2012)心肺蘇生教本 ・日本蘇生協議会編(2016)JRC蘇生ガイドライン2015 			<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解を深めるために、シラバスに関わる内容を確認し、専門用語を予め調べておくこと ・傷病などの応急手当を理解するためには、人間の体に関する知識(解剖学・生理学)が必要となる。既に学んだ資料を活用のこと 			
キーワード						
応急処置法、救命救急法、心肺蘇生法「BLS」資格						